

戌年にイヌについて考える

今年も早1カ月が過ぎ去った。今更だが、2018年は戌年。年賀状用にとイヌのイラスト作成に躍起になっていたのが、大袈裟だが遠い昔のようである。

イヌは人間にとって太古より最も身近な動物だったろう。世界各地でそれぞれの土地の生活に合ったイヌが飼われ、人間の目的に合ったイヌが作り出されてきた。番犬しかり、救助犬しかりである。同様に家畜としての歴史が長いウシやブタやヒツジの骨は、紀元前8000年から9000年の西アジアにある新石器時代の遺跡から出土するらしい。これだけでも気が遠くなりそうだが、イヌの骨は更にさかのぼって、紀元前12000年から15000年の西アジアやヨーロッパの中石器時代から旧石器時代末の遺跡から出土するというから驚きだ。イヌは人間がオオカミを家畜化したのが起源と考えられている。当時、人間もオオカミも、リーダーを中心として大型草食獣を狩る集団生活をおくっていた。ともに獲物をめぐって争っていただろう。人間は考えた。そうだ、オオカミを狩りの手足に使えば良いのだ、と。ライバルだったオオカミの家畜化に成功したその時から、オオカミは、いやイヌは人間の、最も忠実で、有能な手足になった。

日本における最古のイヌ、いわゆる縄文犬は柴犬ぐらいの中小型犬だった。縄文時代中期以降には埋葬された状態で発見されるものが多く、人間と一緒に埋められていたり、骨折治癒痕のあるイヌも出土する。家族に準じた扱いを受け、ケガをした後も治療を施されるなど、温かく養われていたことがうかがえる。イヌは前歯部で獲物に噛みつくが、その歯を生前に欠損したまま使い続け、刃物のように研ぎ澄まされた状態で出土するイヌの頭蓋もある。優秀な猟犬は、追いつめた獲物に噛みついて動きを止め、猟師が至近距離から銃撃するまで決して放さないと聞く。イノシシは、貝塚出土の骨から、体重100kgを超える個体も珍しくなかったと推定され、それらと激闘を繰り返したイヌに対する扱いが丁重であったことは納得できる。古墳時代の埴輪で、イヌとイノシシの形象埴輪が共に出てくることが多いのも、両者が宿敵のライバルだったことを象徴しているのかもしれない。しかし、縄文犬は日本固有種ではなく外来犬と考えられており、次の弥生犬も同様である。埋葬の状況も変化し、縄文犬に比べて顎の骨が頑丈でない弥生犬は、骨がバラバラの状態でも出土する。どうやら食用にされていたらしい。狩猟の時代が終わり、稲作に移行すると、イヌをめぐる世界も変化した。

天理参考館では、イヌを造形した資料を数多く収蔵する。写真1は漢代の犬の俑。飾りの付いた首輪を付け、胴にもベルト



写真1 灰陶犬 漢代 中国 高22.6cm

を巻き、すっと立った姿は日本の郷土玩具、犬張子にそっくりである。イヌは日本でも安産・豊穰・繁栄の象徴とされ、玩具のモ

チーフとしても多様で、日本全国津々浦々、「犬の郷土玩具」がない地域はほとんどないのではないだろうか。現在、写真2の犬張子は東京の郷土玩具とされているが、意外にも江戸は猫好きで、上方は犬好きだったことはあまり知られていない。

京で公家や富裕な商人の間で愛玩された、御殿玩具と称する豪華な張子練物玩具類の題材は目度

い「亀」や「振り槌」だが、なんといっても主要モチーフは圧倒的にイヌ、それも狎である。上流階級が室内で飼育するのは狎が多かったためと考えられる。御殿玩具のサイズはいずれも小さく、手のひらにのる程度だが、玩具と侮れない精緻で豪華なつくりになっている。桐などの大鋸屑を正麩糊で混ぜ、練り込んだものを詰めて原型を写しとり、型から外して乾燥させたうえで紙を貼り付ける。そのうえで胡粉を塗っては乾燥させる作業を何度も繰り返し、最後に絵具をたっぷり使って大和絵風の模様を盛り上げて彩色した。写真3左の狎は銀箔押しで、頭頂部に描かれた宝珠には緋縮緬が貼り付けられた豪華な一品となっている。いずれも前田家加賀百万石の城下町、金沢のもの。御殿玩具がたくさんつくられるようになったのは江戸の文化文政期(1804～1830)で、このような高価な玩具には手の届かない庶民が、代用としてつくったのが土人形である。京の伏見人形をはじめとして、全国各地に郷土玩具が生まれ、「ご当地犬」が多数出現することとなる。

「戌」は、鉞の大きな刃の部分を中心に描いた象形文字が基になって、“武器で守ること、武器で収穫を守る時期”という物騒な意味もあるらしい。平成という時代の終了直前となる今年、全世界が安産、豊穰、繁栄を象徴する穏やかな「イヌ」年となることを切に願う。



写真2 犬張子 昭和初 東京 高7.0cm
傘や箆など竹製品を背負っているのは、たけかむりに犬で「笑」となり、子どもがむずからない願いが込められている。



写真3 御殿玩具 犬 江戸末 加賀
左：高5.3cm 右：高10.8cm